

1. 実施機関

国立大学法人広島大学

2. 企画名

アジア拠点広島コンソーシアムによるG S C構想

3. 総合評価コメント

受講生の募集・一次選抜では、自己財源で実施するホップステージを上手く活用し、近隣の教育委員会と連携して広島県を中心に多くの生徒を集めた点が評価できる。また地元企業や研究施設等と有機的に連携し、一次選抜後のステップステージでのセミナー、二次選抜後のジャンプステージでの共同研究などを実施した点も評価できる。ラボ教育では4者チーム(受講生・指導教員・TA・高校教諭)による研究指導体制に加えてチーム毎に実施主担当者等をフォロワーとして配置し、進捗状況を一元的に把握・管理していた点も良い。また、「アジア拠点」にかかる取組について、ラボ教育におけるアジア圏の高校生との共同研究は実現しなかったものの、アジアを中心とした高校生や研究者と交流する機会を構築するなど一定の成果を取めた。国際学会での発表、日本学生科学賞やJSECのほか科学技術コンテストの出場でも十分な成果を達成できた点も良い。一方、受講生評価については、育てたい人材像に照応した評価方法・基準の明確化と改善を行い、プログラムを通して継続的に評価を実施することで能力の伸長状況を把握し、効果的なフィードバックを行う余地があった。

高校・教育委員会・企業等との緊密な連携を生かした「4者チーム体制」など多様な取組については、本事業として一つのモデルケースとなる企画といえる。今後、実施機関としての経験や本企画での実績を生かし、全学的な協力体制の維持と長期的な企画の継続、積極的な情報発信などによる企画の成果やプログラムの社会への普及、およびさらなるプログラムの発展を期待する。